

平成 29 年度

事業所名 : グループホーム さんりく

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370300196		
法人名	社会福祉法人 三陸福祉会		
事業所名	認知症高齢者グループホームさんりく		
所在地	岩手県大船渡市三陸町越喜来字所通91番地		
自己評価作成日	平成 29 年 9 月 12 日	評価結果市町村受理日	平成30年2月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/03/i.ndex.php?acti.on.kouhyou.detai.l.2017.022.kani=true&amp;Ji.gvosvoCd=0370300196-00&amp;PrEfCd=03&amp;Ver.si.onCd=022">http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/03/i.ndex.php?acti.on.kouhyou.detai.l.2017.022.kani=true&amp;Ji.gvosvoCd=0370300196-00&amp;PrEfCd=03&amp;Ver.si.onCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成 29 年 10月18日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、多機能ホームと併設になっており、昔からの知り合いの方々いつでも会話や一緒にお茶を飲んだりと交流が持たれている。地域交流では、小・中学校の運動会や発表会の招待を受け観覧したり、地域合同での敬老会も開催され楽しく過ごされています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

震災後、地域と共に様々な苦難を乗り越え、高台へ総合的な介護施設(さんりくの園)を設け4年経過した。三階にあるグループホーム(さんりく)は小規模多機能施設と併設で、日頃から入浴(機械浴)はじめ様々なレク活動でも交流があり、また、臨機応変な職員の助勤活動も可能と、併設効果が現れている。一階の広々とした地域交流ホールは、町ぐるみの敬老会や様々な催しにも利用され、非常時の避難場所にも指定されている。近くにある震災以前からの町の診療所は、事業所の医療の柱として利用者全員のかかりつけ医となっており、家族・本人・ホーム全体の安堵感に繋がっている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

平成 29 年度

事業所名 : グループホーム さんりく

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関・ホール内に掲示し、職員が常に意識できるように努めている。	理念は震災後の仮設営業時に職員全員で検討し作成したものであり、「その人らしく」を大切に、日々の申し送り時に、気づきシートを基に、確認し合っている。大腿骨を骨折した利用者が廊下でいざり運動をしているのを優しく見守っていた。	職員不足の影響もあり、職員会議は実施していない。日々の会話の中でカバーしている状態であり、様々な課題に取り組むうえで、管理者を交えてた会議開催を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	学校行事(運動会)等へ招待され参加をしたり、毎年恒例となった、当施設で開催される敬老会へ参加され地域の方々との繋がりが持たれている。	併設の交流ホールを活かし、夏祭りやクリスマス会、町内の敬老会(50名)などが行われ、利用者・家族共々楽しんでいる。また小学生の運動会見学やホームでの中学生の体験学習受入れ等、子ども達との係わりも楽しみの一つとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域高齢者に役立つ取り組みは出来ていないが、今後、話し合いを持ちながら取り組んでいきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議では、事前に議題を決め取り組むようにしている。また、施設見学等もして頂き率直な意見を聞きながらサービス向上に繋げている。	地域の主たる方々で構成され、報告・連絡・フリートークの形で進めている。発災時の3階からの避難についての質問をきっかけに、法人主催の避難訓練に参加し、入居者の状況を見て頂くなど、踏み込んだ係わりが出来ている。	行政はじめ、多様な方々を委員としており、この機会に人材・防災・地域との繋がりが等、様々な課題について議論を深め、更に前進されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議メンバーには、市の担当者も出席して頂いており、事業所の考え方や現場の実情は伝わっている。また、担当者の方から地域の高齢者状況を聞くなど関係作りに努めている。	大半の手続きは、市の担当者が来所して済ませてもらっており、ホームから出向くことは少ない。市の担当者から、地域の高齢者の状況や入居希望に関する情報を頂くなど、繋がりが深まってきている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠等は一切していない。常に自由に動き回れるよう取り組んでいる。身体拘束では「言葉による拘束」もあることから、職員が互いに意識しながら取り組んでいる。	離床時の転倒が懸念され絶えず注意している。2人の利用者には、ベットの柵を使った立ち易い態勢を試みている「言葉による拘束、虐待等は、その都度、職員間で注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待・言葉の虐待について、マニュアルを確認したり、職員が互いに注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、必要とされる利用者はいないが、勉強会を開きながら、必要とされた時に対応が出来るように努めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や介護保険改定があった際には、必ず家族へ説明し理解や納得が頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1度は家族が来所頂く機会を設け、利用者の状態を伝え、また、家族の意見や要望も聞くように努めている。	毎月の精算は直接ホームに支払う方式のため、家族にはその都度利用者の状況を見て頂いている。また1行日誌(シート)で家族に日頃の様子も伝えている。家族から身だしなみや衣類の選別などを見て欲しいとの要望があり、本人の意向を確認しながら、対応している	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者が心地よく生活出来るために常に考える機会を設け、提案があれば一緒に考え実行できるように心かけている。	施設の消毒・飾り付け等の提案やシフト・休日の変更等の要望にも出来るだけ対応している。管理者も職員と共に考えるように心かけている。法人ではキャリアコンサルタント導入も検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃の勤務状況を把握し、無理のない勤務体制にならないように配慮している。また、コミュニケーションを取りながら仕事にやりがいを持てるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者も現場に入り、仕事をしながら知識や技術を指導していくようにしている。事業所内外での研修にも参加できるように努めていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出来るだけ研修に参加できるように取り組んでいく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する前の段階で、何度か本人との機会を設け、会話をしながら不安や気持ちを受け止めながら信頼関係を築けるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時や契約時には、時間をかけてじっくり話を聞くように心かけている。さまざまな思いを受け止め、少しでも不安や悩みの解決に努め信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームに入所出来るまでの、他サービスの内容を説明し情報を提供しながら納得・安心して頂けるように努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その日によって行動や精神状態・身体状態が異なりますが、その都度、本人の表情や言動・行動から思いをくみ取りながら信頼関係が作れるように努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1度は必ず来所してもらい状態を見て頂くようにしている。また、家族が宿泊希望された時は快く宿泊して頂くように努めている。随時、家族と密に連絡を取り合いながら互いに協力し合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのスーパーへの買い物や理美容室の来所。また、知人・親戚の面会もあり居室にて談話されている。	受診の帰りに家族と待ち合わせて何時ものスーパーで買い物を楽しむ方や、親戚が時折面会に来られ、居室で談話されていく方もいる。在宅の夫が入所している妻のために、2週に1度泊りがけで来所している例もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間でも気の合う、合わないがある為、座席の配慮をしている。また、ソファーにて寄り添って会話されている場面も見られている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在まで、契約終了となった入所者は全て死亡により終了となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを図りながら思いをくみ取り、さまざまな場面で利用者自身が選択できるように工夫しながら努めている。	昔話・歌などで思い出に耽り、話を良く聞き、思いをくみ取っている。入浴時の会話から意向を把握出来ることも多々ある。食べたいものは選択肢を提示し選んでもらっているが、利用者の好きな食べ物をもって訪問される家族もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実調の際の聞き取りや、意見書の特記事項などを参考に、本人とコミュニケーションを図りながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、常に目を配りながらその時々の状態を把握しながら、情報を共有し努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	「気づきシート」を活用し、モニタリングを行いながら介護計画の見直しを行っている。	主に担当職員が日々の変化を気付シートに記入し、個別の情報としてケアプランの基本とし、看護師の助言や家族からの意見も取り入れ、3か月ごとにモニタリングをしている。変化があった際には随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートや、ケース記録を活用しながら職員間で情報を共有し実践に繋げている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時のニーズに合わせ、家族と相談した上で職員間でも話し合い、臨機応変に支援できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	商店街への買い物や病院、理容室の訪問など協力して頂きながら取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全員の方が、主治医が診療所の医師となっており、定期受診をはじめ状態によっては往診対応もして頂き、状態によっては医師と家族との面談も行われる事もあり安心して生活出来ている。	近くにある町の診療所が利用者全員の主治医となっている。移動困難時には往診も可能であり、診療の際には常に優先して診て頂いている。時には家族との面談も行い利用者の状態を把握して頂き、事業所・家族としてはこの上ない安心感に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	基本的に、受診介助は看護師が対応している。日々の状態を適切に医師に伝え、指示を頂くようにしている。また、職員は状態変化に気づいた時は直ぐに看護師へ報告を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、定期的に面会を行い医療機関と連携を図りながら支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前に「看取り確認書」を記入して頂き、家族の希望等の把握に努めている。また、状態に応じ、家族と医師の面談もあり、事業所が出来る事を理解して頂いた上で対応している。	家族とは、契約時に「看取り確認」を行い、毎年春に再確認をしている。ホームでは毎年のように看取りを経験しており、対象者がいる場合には、医師と午前・午後にメールを交換して連絡を密にとり、家族の安心に繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時の体制については「緊急連絡体制図」やマニュアルを作成し周知徹底を図っている。応急手当については、定期的に訓練をして行きたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民の方々や運営推進会議委員の協力を頂きながら、法人の防災計画のもと実施している。	ホーム独自の訓練はしていないが、法人全体の避難訓練として実施している。推進会議に合わせて行い、17～18人の地域の方に参加協力をお願いしている。マニュアル・設備・備品等は完備してある。機会を見て、ホーム独自の避難訓練も試みたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、利用者の個々の性格を理解し受け止めながらプライバシーを損ねないように努めている。	利用者の性格・特徴を把握し、職員は互いに教え合いながら対応している。新人へは主として実務を通じて指導し自然な形で接遇を習得し、利用者の人格の尊重もなされている。場面、場面での笑顔を写真に残し、大切にしているのが印象的である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつや選択や活動への参加など、その時々々の場面において声掛けを行い、表情等を見ながら意思を読み取るように心かけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	日々の利用者の状態を把握しながら、個々のペースに合わせ柔軟な対応に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で衣類を選び着れる方は、タンスの中を常に整えて自由に脱ぎ着出来るようにしている。また、時期を見て衣類の整理整頓し季節に合った衣類を着て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の大部分の方が、一緒に食事作りなどできるのが難しくなってきたが、園内で収穫された野菜など美味しく頂けるよう職員は工夫している。	職員が献立をつくり、毎月法人の管理栄養士の指導を受けている。高齢化が著しく、職員と一緒に手伝えることは難しくなってきた。食事摂取量、水分量を記録し、バランスを考えながら提供している。食事要介助者が3名もあり、職員も同時に箸をとることは難しい状況にある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量を観察し記録しながら把握し、献立についても職員同士がバランスを考えながら提供している。また、毎月、管理栄養士に献立表を見てもらいコメントを頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けを行い口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、個々の排泄パターンを把握し定期的に声掛けしながらトイレ誘導を行っている。また、昼夜の排泄用品の工夫をしながら対応している。	排泄用品は昼は布パンツ、夜は布パンツに加えパットを使う方が多く、後始末は職員が確認している。ポータブルトイレは1人使用している。少しでも改善されることを願いながら、職員がチェック表を基に支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを行い排便状況の把握に努めている。乳製品の提供や下剤の処方されている方は、医師の指示通り服用し有無を確認している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めてはいるが、その時々状態によって強制はせず、日を改めて入浴したり時間を置くなど対応している。	ホームでの個浴は2名のみ使用、7名の方は併設の小規模多機能での機械浴を使用している。週2回を目安に体調を見ながら、全職員で対応している。出来るだけ衣類は自分で選ぶように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状態に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入浴後、昼食後、活動後など、個々の状態を見ながら声掛けし休息を図っている。夜間についても個々の時間に合わせ、職員と団欒しながらゆっくり入眠できるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が常に確認できるように個々の薬情報を回覧できるようにしている。内服薬の管理は看護師が行い、誤薬防止に必ず職員2名で確認し服用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	定期的に市内に買い物に出かける方や季節によってドライブをしたり、園外散歩をしたりと個々の身体状態に合わせ気分転換を図れるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に市内に買い物に出かける方や季節によってドライブをしたり、園外散歩をしたりと個々の身体状態に合わせ気分転換を図れるように努めている。また、お盆や正月など家族の協力のもと自宅へ帰省されるなどしている。	介護度が高くなり、外泊が出来なくなってきている。併設の小規模多機能施設への往来はあるが外の散歩は難しくなっている。時々、刺し子道具を買いに出かける方もいる。毎日午後はレクを行い、体操・うた・ゲーム等を楽しまれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所者の中には、金額は少ないが自己管理されている方もいる。また、家族より「お小遣い」として事業所で預かり、外出時は預り金で対応している。家族には、毎月「金銭出納簿」「確認書」を送付し確認して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より電話をかけたいなどの希望は無いが、遠方にいる家族より荷物や手紙など届いた際は、職員が電話を掛け本人と会話ができるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明については、落ち着ける感じがあり、室内温度も入所者に合わせ調整し、定期的に空気の入れ替えをするように努めている。また、室内も季節感を感じられるように装飾も工夫しながら心地よく過ごせるように努めている。	程良い照明、広い廊下、季節の貼り絵や花などが秋を感じさせている。1日中横になっている方の家族が持参してくれた厚手のセンターラグをホールの真ん中で使用し、ゆっくりくつろいでいる。窓越しに見える広大な原野が四季の移り変わりを見事に表している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂ホール、ソファー、お座敷など個々にお気に入りの場所で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際は、家族・本人の居心地の良い空間をつくってもらうように協力を頂いている。写真やお気に入り[ぬいぐるみ]など飾る事で安心できるように工夫している。	整然とした居室が多く、職員と家族の配慮が窺える。写真・カレンダー・ぬり絵・縫いぐるみ・花等が置かれ、清潔感が漂い衛生面にも気配りされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設設備は、安全面を配慮した造りとなっている。その都度、入所者にとって環境面で問題が生じた場合は工夫しながら安全に生活できるよう支援している。		